

## 卒業研究を行い、卒業論文を執筆・提出する皆さんへ —4年間の集大成としての「卒業論文」を作成するために—

皆さんは、いよいよ現代心理学部の4年生になりました。そして、この4年間の集大成として卒業論文を作成されます。皆さんには、卒業研究が円滑に行われるよう「文献講読」の授業が設定され、適切な研究計画を立案すると共にデータ収集をうまく進められるよう「実験実習」や「調査実習」を繰り返し経験してもらい、得られたデータを的確に分析できるよう「統計法」や各種「研究法」を履修していただきました。他の講義科目を含めて、これらは全て卒業研究を自立的に行い卒業論文を科学的に相応しい方法で執筆できるように設計されたものです。ですから、卒業論文ではこれまでの皆さんの学びや研究姿勢などが根本から問われることとなります。

4年生は就活や進学あるいは留学などの準備のためにたいへん忙しい毎日を送ることとなります。したがって、計画的に卒業研究を進めなければ、評価に値する卒業論文を執筆することはできません。例年「卒業論文指導演習」の全体指導や個別指導をないがしろにする人がいますが、皆さんは心理学研究の初学者ですので、自分の思い込みや誤った信念に基づいて卒業研究を進めることは絶対に避けてください。また、残念なことに「剽窃」や「盗用」（例えば、引用であることを明らかにしないなど、不正な形で他人の文章をコピー＆ペーストすること）など科学的態度とはほど遠い「不正行為」がないわけではありません。このような心理学科の教育理念を踏みにじる行為に対しては厳正な処分をくだします。皆さんは、そのような4年間を棒に振るような行為を絶対に行わないでください。

そのために改めて『履修要項』「VI. 試験・成績 5. レポート」の「レポート・論文作成時のルールについて」を確認してください。その上で、「実験実習」、「調査実習」の要領書を読み返し、引用についてのルールを再度確認して下さい。立教大学が作成している『Master or Writing』の「引用・参考と出典の示し方」も参考にして下さい。また、[心理学科教育研究支援室のホームページ](#)に「心理学科・現代心理学研究科倫理綱領および行動規範」が提示され、心理学研究を行う人間の基本的な心構えが記されています。すでに3年次の心理学演習（ゼミ）などで学んでいることと思いますが、この倫理綱領・行動規範についてもかならず目を通してください。どうか、科学的・倫理的規範に則って卒業研究と論文の執筆をして下さい。

就活や進学あるいは留学などの準備の合間を縫って、しっかりと指導教員の先生による卒論指導を受けるようにして下さい。繰り返しになりますが、卒業論文は皆さんが初めて執筆する学術研究論文ですから、自力ですべてを完遂するのは困難であると予想されます。笑顔で卒業式を迎えることができるよう、そして4年間の集大成である卒業論文が十分に皆さんの実力を反映し、学びの成果が凝集されたものとなるよう、しっかり取り組めるよう学科教員一同支援していきたいと思ひます。